

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

社会福祉法人 恩賜財団神奈川県同胞援護会
金沢愛児園

平成29年12月22日

株式会社フィールズ

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 認証第6号

目次

評価結果総括

■ 評価方法	1
■ 総合評価	2
■ 評価領域ごとの特記事項	5
人権の尊重	
意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	
サービスマネジメントシステムの確立	
地域との交流、連携	
運営上の透明性の確保と継続性	
職員の資質向上	

分類別評価結果

■ 利用者本人（子ども本人）の尊重	8
■ サービスの実施内容	11
■ 地域支援機能	16
■ 開かれた運営	17
■ 人材育成、援助技術の向上	18
■ 経営管理	20

利用者本人調査

■ 利用者本人調査結果	21
-------------	----

家族アンケート結果

■ アンケートの概要	26
■ アンケート結果	27

事業者コメント

■ 事業者からのコメント	32
--------------	----

評価結果総括

法人名 社会福祉法人 恩賜財団神奈川県同胞援護会
事業所名 金沢愛児園
施設長名 石井 信恵

□ 評価方法

自己評価方法

実施期間 平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日
実施方法 全職員が合議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 平成 29 年 11 月 15 日、平成 29 年 11 月 22 日
実施方法 評価調査員が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 平成 29 年 9 月 20 日～平成 29 年 10 月 15 日
実施方法 施設から利用者家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 平成 29 年 11 月 15 日、平成 29 年 11 月 22 日
実施方法 訪問調査時に保育見学、食事や活動場면을観察して行った。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

〔施設の概要〕

金沢愛児園は京浜急行金沢八景駅あるいは金沢文庫駅からバス利用又は徒歩 15 分程の静かな住宅地の中にあります。昭和 24 年 6 月に開設し今年で 68 年を迎え、古くから地域の子育てを担ってきた歴史のある保育園です。設置法人は社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会で、救護施設、高齢者施設、母子生活支援施設、診療所などさまざまな福祉サービスを提供しています。園は、0 歳児から就学前児童を対象とし、定員は 120 名で現在 127 名が在籍しています。園の近隣には、歴史・文化のある地域柄、寺社が点在しています。また八景島や大小さまざまな公園があり恵まれた環境にあります。子どもたちは広い園庭活動のほか、散歩や周辺の公園に出かけるなど積極的に園外活動を行っています。法人共通の保育理念のもと、「笑顔で元気にあいさつができる子」「心もからだも健康で思いやりのある子」「のびのびと表現できる子」を園の保育目標に掲げ、保育を行っています。

《優れている点》

1. 子どもたちは、地域の中でいろいろな人と触れ合い、のびのびと育っています

園では地域とのつながりを重視し、積極的な取り組みをしています。子どもたちは、高齢者グループホームを訪問したり、町内会館の「ふれあい会」に参加して、一緒に童謡を歌い、劇を披露するなど、地域の高齢者と定期的に交流しています。毎月の体験保育で来園する地域の子どもたちと一緒に遊び、給食を食べて仲良く過ごしています。散歩では、公園、図書館、地区センター、警察署、消防署などいろいろなところに出かけ、地域を知る経験をしています。地域交流を担当している職員たちの発案で、ハロウィンの時は近隣の商店の協力を得て、子どもたちがお店を回り、お菓子をもらって楽しく過ごしました。園の行事には、地域の人も多数参加して子どもたちの様子を見守っています。

今年度から、子どもたちの元気な声がいつも聞こえている近所の人を招待して、子どもたちの姿を見てもらい給食と一緒に食べる交流を図りました。子どもたちは日々の園生活の中で、いろいろな人と出会い、地域のことを学び、のびのびと育っています。

2. 子育て支援サービスは地域から高い関心が得られています

園は、丁寧な子育て支援サービスを提供しており、地域の子育て世代の人々から関心を得ています。具体的なサービスとして、一時保育、園庭開放、遊びサポート（交流保育、遊具玩具遊び、移動動物村など）があります。遊びサポートの中には、金沢南部地区社会福祉協議会の子育て支援シーエンジェルとの連携で行っている地域の町内会館での出張保育（年3回）も含まれます。

園での保育を体験する機会として、月1回「遊ぼう会」を実施し、参加するお子さんと同じ年齢のクラスに入り園児と一緒に遊んだり給食を食べ交流できる機会もあります。一時保育の受け入れは1日4～5名としていますが、地域ニーズが高く問い合わせが多いサービスです。さらに地域ニーズに即したサービスの提供のため、園行事参加者や子育て支援サービス利用者からアンケートをとり、今後の参考にしています。

3. 5プロジェクト活動により職員の意識向上のために取り組んでいます

保育経験豊富な職員が多く、さらに各種研修で学び、職員は園の目指す保育のために一人一人研鑽に励んでいます。

保育士としての援助技術の向上のみならず運営面においても職員の意識を高めてもらう取り組みとして、園長の発案で5プロジェクトを立ち上げています。

全職員が、防災、安全管理、環境整備、地域交流、食育の5プロジェクト（委員会）のいずれかに所属をしています。毎月各委員会を開催し、それぞれの会の視点に立った話し合い、意見交換を活発に行っています。毎月の職員会議での各委員会活動の進捗状況の報告は、お互いのプロジェクト活動の良い刺激になっており、プロジェクト活動を通して、職員の技術、モチベーションの向上につながっています。

《課題や改善することが期待される事項》

1. 記録の整理整頓、分類のさらなる工夫が期待されます

各種マニュアル類を作り、業務の標準化を図り、業務点検として活用をしています。会議録や研修報告などは今後に活かすため記録に残しています。しかし、ファイル類や記録が分散されている傾向があります。必要な情報をすぐに確認するため、まとめ方の整理整頓、分類のさらなる工夫が期待されます。

2. 子どもたちが主体的に活動できる環境構成を、さらに進めていくことが期待されます

保育室内に絵本や図鑑以外を収納するスペースが無いため、保育室近くの倉庫で保管をしています。保管しているおもちゃや教材は写真に撮り、必要時には子どもたちに写真を示し、選べるようにしていますが、今後は、施設の構造上の制約がある中でも子どもたちがより主体的に活動できる環境構成について検討が期待されます。

□ 評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ① 今年度、園は設置法人の保育理念に基づいた保育目標を作り変えるにあたり、全職員で意見や思いを出し合い、「笑顔で元気に挨拶ができる子」「心もからだも健康で思いやりのある子」「のびのびと表現できる子」という園独自の目標を掲げました。新目標決定後も園長は、「子どもがどうしたいのか」を中心にした保育への思いを職員会議などで折にふれ伝えていきます。職員は、新しい保育目標で目指す方向性をさらに明確にし、実践につなげていこうとしています。
- ② 職員は、子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮し、威圧的な言葉遣いにならないように気をつけています。全職員に配付される「職員の心得」には、10項目の保育に関する心構えが示されており、職員会議で子どもの人権を尊重することの大切さについて確認しています。園長が気になった言葉かけについては、その場で確認しています。
- ③ 「個人情報保護管理規程」に個人情報の取り扱いが定められています。「職員の心得」にも、情報の管理についての項目があり、守秘義務について周知されています。保護者には「個人情報の利用目的について」を配付して説明を行い、「個人情報の使用等に係る同意書」を提出してもらっています。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ① 保育理念、基本方針に基づいた保育を実践するために、それらを保育課程に明記しています。保育課程に基づいた年間指導計画から月間指導計画・週案を作成しています。職員は、毎月の職員会議、乳児、幼児会議（ケース検討含む）で話し合いや、振り返りの時間を設け、子どもの様子を共有し、保育に活かしています。
- ② 0～2歳児クラスは個別の指導計画を作成し、一人一人の発達に合わせ、丁寧に関わっていきこうとしています。乳児会議、職員会議で常時情報を共有し、意見交換を行い柔軟に変更・見直しを行っています。保護者には、離乳食の進め方、トイレトレーニング、個別の課題がある場合など、園での工夫点を交えながら子どもの状況に合わせて説明し、同意を得ています。
- ③ 保育内容の遊びでは、子どもの年齢、発達に応じたおもちゃ、教材、絵本を用意しています。日々の園庭遊びなど日常的に子どもたちは関わっていますが、幼児は異年齢活動を年間計画に基づいて行っています。戸外活動は園庭遊びのほか、近隣の公園など積極的に出かけています。
- ④ 食事、排泄、睡眠については一人一人の発達状況・健康状態や生活パターンを把握・考慮しながら、保護者と連携を取り、家庭との連続性を心がけています。職員会議の中で、味付けや調理方法、職員との給食提供時の連携について検討し、食事作りに反映しています。食育を担当する職員チームが計画を立て、栽培活動、クッキング、食環境整備を年齢発達に応じて実践しています。
- ⑤ 保護者とは、朝夕の送迎時の会話を心がけています。子どものその日の様子は、各クラスの「クラスノート」で、今日の出来事や園生活に関する情報を確認することができます。その他月1回の園だよりやクラスだより、年2回の懇談会で日常の保育や子どもたちの様子が保護者に分かりやすく伝わるようにしています。また、保護者会が組織されており、保護者会会長2名と園長との定期的な意見交換や園と共催でバザーを行っています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- ① 入園時に把握した生育や生活記録、入園後の成長発達記録、面談記録のほか、子どもの経過記録は、特に記録期間を設定せず、担任が子ども一人一人の状況に応じて成長発達の記録をしています。記録は児童票としてファイルし、事務室で保管管理をしています。必要時には全職員が閲覧可能なほか、職員会議などで常に情報共有をしています。
- ② 職員は、発達支援、虐待、アレルギー、外国籍など配慮が必要な子どもの様子については職員会議や乳児、幼児会議で子どもの様子を確認したり、ケース検討を行っており、すべての職員が同じ認識を持って保育にあたる体制があります。
- ③ 意見箱の設置、保護者会からの意見、保護者懇談会、個人面談での話し合い、アンケートでの確認のほか、職員は送迎時に保護者に積極的に声をかけ、要望を聞くように心がけています。第三委員2名のほか、園のみでの解決が難しい場合は、金沢区福祉保健センターこども家庭支援課と連携を図っていく体制を整えています。
- ④ 健康・衛生・安全などに関する各マニュアルを整備し、マニュアルに基づいた対応や訓練を行っています。行政、医療機関、児童相談所など必要な関係機関・地域の団体の連絡先を把握しています。

4. 地域との交流・連携

- ① 園は、地域での子育てを支援するためのサービスとして、一時保育、園庭開放、遊びサポート（交流保育、遊具玩具遊び、移動動物村など）を提供しています。丁寧な育児支援サービスを提供しており、地域の子育て世代の人々から関心を得ています。
- ② 散歩で、地域の図書館や地区センターのプレイルームを利用しています。近隣の保育園、小学校、高齢者施設、商店などと子どもたちは交流しています。
- ③ 保育園のホームページで、サービス内容、保育時間、職員体制などの詳細な情報を発信しています。その他、地域子育て支援拠点のホームページ、シーエンジェル(金沢南部地区子育てしやすい地域づくり事業推進協議会)のお知らせブログに紹介されています。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ① 自己評価シートに基づいたチェックの後、仕事への姿勢、仕事の成果、課題の再確認の自己コメントを記載しています。年度末には職員が1年の振り返りを6グループに分かれ、討議をしています。園の自己評価は、園だよりで公表をしています。
- ② 職員が守るべき法・規範・服務規程などは就業規則やそれらをまとめた職員の心得として明記されており、入職時に説明をし、職員の心得を配付しています。
- ③ 園単独の経営、運営状況などの公表はありませんが、設置法人の経営、運営状況はホームページで公開しています。

- ④ 園目標の改定にあたっての話し合い、新しい目標・保育方針の理解度「卒園までに育てたい子どもの姿」とは、を内容とした園内研修など、職員は、理念、目標、方針の理解を深めています。園長は、職員会議で折に触れ保育の方針や目標に立ち返る話し、職員の理解をさらに深め、実践につなげるようにしています。

6. 職員の資質向上の促進

- ① 設置法人の人事考課フレームに基づき人材の育成に取り組んでいます。初任者は保育主任、それ以上の職員は園長との年2回の面談で職員個々の目標や人事考課フレームを用いての話し合いや評価を行い、達成度を確認し、次年度につなげています。
- ② 非常勤職員は補助的な立場で保育に関わっていますが、常勤職員同様に園の状況を把握できるよう、シートに基づいた自己評価を実施しています。園長面談を通し、評価、課題の把握につなげています。
- ③ 年間指導計画、月間指導計画・週案があり、反省・評価が出来る書式が定型化されています。記録を取る際は、子どもの目に見えない心の動きを捉え支える、大事な出来事を忘れない、改まって振り返って考えることなどを意識しています。見直し後、次の指導計画に反映しています。振り返りから気づいた課題などは、職員会議で話し合っています。今年度、保育日誌の書式を変更しています。子どもの姿、保育士との関わり、子どもの声など、題名をつけてエピソード形式で記載をしています。
- ④ 防災、安全管理、環境整備、地域交流、食育の5プロジェクト（委員会）を立ち上げ、全職員がいずれかに所属をしています。毎月各委員会を開催し、それぞれの会の視点に立った話し合い、意見交換を活発に行っています。委員会活動を通して、職員の技術、モチベーションの向上につなげています。

分類別評価結果（および理由）

※ ひょう太マークは各項目において下記の水準をあらわしています。また、各項目ごとにひょう太の数の理由のコメントがあります
 3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

I 利用者本人の尊重

I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



- ① 今年度、園は設置法人の保育理念に基づいた園の保育目標を作り変えるにあたり、全職員で意見や思いを出し合っています。その後「笑顔で元気に挨拶ができる子」「心もからだも健康で思いやりのある子」「のびのびと表現できる子」という目標を掲げました。新目標決定後も園長は、「子どもがどうしたいのか」を中心に考える保育への思いを職員会議などで折にふれ伝えていきます。職員は、新しい保育目標で目指す方向性をさらに明確にし、実践につなげていこうとしています。
- ② 保育課程は、平成20年の保育所保育指針の改定時に作成しています。園の子どもの年齢ごとの発達に一貫性があるか、保護者の状況、周囲の環境に即しているかなど、毎年見直しをしています。保育課程は園のしおりに明記し、保護者に説明をしているほか、年度始めのクラス懇談会で、変更した園目標について説明をしています。保育課程に基づいた各クラスの年間目標や保育の内容については担任が説明をしています。
- ③ 年間指導計画を基に、月間指導計画・週案を作成しています。職員は、子どもたちの生き生きとした姿が見られ、子ども自身が思いを表現できるような関わり方を心がけ、関わりから子どもの姿をとらえることができるよう努めています。子どもの意見や興味を取り入れ、計画はあくまでも計画として柔軟性を持たせています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ① 入園前の3月の下旬に職員が個別の保護者面談を行っています。持参をお願いした児童票と園が用意している面談用の入園オリエンテーションの書式に基づいて聞き取りをしています。面談での状況は、クラス内の打ち合わせ時や直近の職員会議で共有をし、入園までの生活状況なども考慮しながら入園後に速やかに対応ができるようにしています。
- ② ならし保育の必要性について、入園説明会で説明をしています。ならし保育は1週間～10日を目安にしていますが、保護者の状況に応じて期間の短縮、延長は柔軟に対応しています。子どもが安心するようおしゃぶりやタオルなど持ち込みができるほか、哺乳瓶も家庭と同じにすることもあります。在園児への配慮については、複数担任の場合、一人が持ち上がるようにしたり、新入園児と遊ぶ場所を少し分け、つられ泣きが少なくなるようにしています。
- ③ 年間指導計画を基に、クラスごとに月間指導計画・週案を作成しています。毎月乳児、幼児会議を行い、アイデア提供やアドバイスを出し合っています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ① 環境整備（プロジェクト）所属の職員が中心となり、子どもが快適に過ごせる環境作りについて検討をしています。マニュアルや掃除チェックシートに基づいた清掃をし、園内外は清潔な状態を保っています。各保育室にエアコン、加湿機能付きの空気清浄機、扇風機を設置しています。0、1 歳児保育室は床暖房にしています。トイレは開園時間中は換気扇を回しています。保育室は適宜窓やドアを開け、換気をしています。温湿度は保育日誌、午睡時の呼吸チェック表に日々記録をしています。保育室の窓が大きく十分に陽光を取り入れることができます。
- ② 0～2 歳児の保育室内は、小さな空間やコーナーを作るために、敷物、低い棚、衝立などを利用しています。0 歳児クラスは食事と午睡の空間を分けています。1 歳児クラスはランチルームで食事をしています。3～5 歳児クラスは、ホールを利用して午睡をしています。
- ③ 各クラスの保育室以外に、ホール、玄関の絵本コーナー、一時保育室を異年齢で交流する場として使用しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ① 0～2 歳児クラスは個別の指導計画を作成しています。一人一人の発達に合わせ、丁寧に関わってこうとしています。幼児で配慮が必要な子どもは、職員会議、全体会議、幼児会議でのケース検討をしています。各種会議で常時情報を共有し、意見交換を行い柔軟に変更・見直しを行っています。保護者には、離乳食の進め方、トイレトレーニング、個別の課題がある場合など、園での工夫点を交えながら子どもの状況に合わせて説明し、同意を得ています。
- ② 保育所児童保育要録は、子どもが進学する小学校へ持参あるいは郵送をしています。必要に応じて小学校の教員の来園時や電話で子どもの様子について話をしています。
- ③ 子どもの経過記録は、特に記録期間を設定せず、担任が子ども一人一人の状況に応じて成長発達の記録をしています。記録は児童票としてファイルし、事務室で保管管理をしています。必要時には全職員が閲覧可能なほか、職員会議などで常に情報共有をしています。進級時は児童票を基に新旧職員間で伝達をしています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ① 特に配慮を要する子どもを受け入れる体制を整え、受け入れを行っています。職員会議や乳児、幼児会議で各クラスの様子を確認したり、ケース検討を行っています。園長が、南部療育運営協議会の委員になっており、協議会から得られた最新情報に関して職員間で話し合い、同じ認識で保育にあたるよう努めています。また、横浜南部地域療育センターの巡回訪問を受け、特に配慮を要する子どもについてアドバイスをしています。
- ② 障害のある子どもの現在の受け入れはありませんが、以前に受け入れがあった際には、障害の特性、こだわりなど配慮しつつ他の子どもとの関わりを保つよう対応しました。
- ③ 虐待に関して、疑わしい事柄に気づいた際は、金沢区子ども家庭支援課をはじめ、関係機関に相談・連携を図る体制を整えています。家庭支援の必要な保護者とはさり気ないコミュニケーションの積み重ねから信頼関係を図るようにしています。

- ④ 食物アレルギーのある子どもには、アレルギー対応マニュアルに則った適切な対応に努めています。保護者に医師からの生活管理指導表を提出してもらい除去食を提供しています。提供する際は、専用トレイ、食器の色を変え、除去食用のおかわりの用意をしています。机を別にし、傍らでの見守りは常勤職員としています。
- ⑤ 外国籍の子どもの現在の受け入れはありませんが、入園の際には、保護者とは事前の説明を丁寧に行い、状況を確認することとしています。言葉でのコミュニケーションが難しい場合は、それぞれに合った対応策を検討することとしています。

I-6 苦情解決体制



- ① 苦情受付担当者は主任、解決担当者は園長であり、第三者委員2名の氏名や連絡先など苦情解決体制について園のしおりに明記しています。玄関の掲示板に園のしおりを掲げ、苦情処理規定を掲示しています。また、玄関に意見箱を置いています。保護者会からの意見、保護者懇談会、個人面談での話し合い、アンケートでの確認のほか、職員は送迎時に保護者に積極的に声をかけ、要望を聞くように心がけています。外部の相談・苦情窓口として、かながわ福祉サービス運営適正化委員会の連絡先を掲示板にて知らせています。
- ② 保護者の意見要望に対し、園単独での対応が難しい場合は、第三者委員や金沢区こども家庭支援課と連携を図っていく体制を整えています。
- ③ さまざまな形で出されている保護者からの苦情、要望をまとめ、データを蓄積・整理し、解決に活かしていくための仕組みとして要望受付書ファイルを新たに作っています。しかし、苦情などのデータを蓄積し、職員で共有・分析するまでには至っていません。外部研修に職員が参加して事例等学んでいますので、苦情解決に向けて今後の取り組みが期待されます。

Ⅱ サービスの実施内容

Ⅱ-1 保育内容【遊び】



- ① 子どもの年齢や発達にふさわしいおもちゃや教材を揃え、遊びに集中できるようにしています。絵本や図鑑は保育室の棚に並べてあり、子どもたちが取り出せるようになっています。おもちゃや教材は、子どもたちの希望を聞いて、職員が出しています。背の低いパーティションを使い、場面に応じて仕切り、安全に落ち着いて遊ぶことができるようにしています。
- ② 天気の良い日は広い園庭に出て遊びます。園庭には、砂場、小さなアスレチック、木の家、ジャングジム、滑り台などいろいろな遊具があります。園庭の真ん中で鬼ごっこをしたり、遊具や樹木を利用してかくれんぼをする子どもたちの姿も見られます。子どもたちは日よけの帽子を被って、元気に外遊びを楽しんでいます。夏場に使用するプールやシャワーは園庭に備え付けられています。月に2回、外部講師による幼児の体操教室を行っています。園庭やホールで音楽体操、マット運動や鉄棒を行います。
- ③ 近隣にはたくさんの公園があり、近隣の保育園と相談して公園で一緒に遊ぶこともあります。電車や川が見える場所に寄ったり、消防署や警察署に行くと消防車やパトカーを見せってもらうこともあります。図書館や地区センターも利用しています。行き帰りに出会った地域の人と挨拶を交わし、交通ルールを守って歩きます。乳児のお散歩は、4人乗りのベビーカーや、立ち乗りバギーで出かけます。
- ④ 園庭で、里芋、とうもろこし、キュウリ、トマトなどを育てています。子どもたちが苗を植え、水やりや収穫を体験しています。園庭の植栽が多く、木の実を集めたりや虫を探す楽しみもあります。ダンゴ虫で遊んだり、ドングリや松ぼっくりでクリスマスリースを作ります。3歳児クラスが、近くのお花屋さんにチューリップの球根を買いに行き、4、5歳児クラスで植付をして、花が咲くのをみんなで楽しみにしています。
- ⑤ 園行事の「移動動物村」では、ポニーに乗ったり、ウサギ、モルモット、ヤギ、羊、牛と触れ合うことができ、地域の人と一緒に楽しめます。大きな蛇に触ってみる子もいます。「お店屋さんごっこ」では、子どもたちが、本物そっくりの握りずしや果物などを一生懸命作り、当日は売り買いを楽しみます。
- ⑥ 異年齢の子ども同士がかかわりを持てるように、3～5歳児クラスの縦割保育を行っています。各月のねらいや活動内容を決め「縦割り保育年間目標」を設定しています。ミニ遠足、おだんごづくり、クリスマスの飾りつけ、プレゼント作りなどの活動の中で、子どもたちが、年長児へのあこがれを抱いて目標を持つことや、年長の自覚を持ち、優しさや思いやりの心を育むことができるように配慮しています。

Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ① 給食の献立は栄養士が作成し、食材は地元の業者から仕入れています。職員は、子どもの食べようとする意欲を大切に、適切な言葉かけや援助をしています。食の細い子や好き嫌いのある子は、本人と相談して食べきれぬ量に調整し、完食の達成感を感じられるように配慮しています。乳児の授乳にあたっては、なるべく同じ職員が担当することで、子どもに安心感を与えるように配慮しています。

- ② 季節感のある献立や、食欲が湧くような盛り付けを工夫しており、鬼やこいのぼり等を表現した行事食を提供しています。年2回のバイキングの日は、唐揚げ、ウインナー、スパゲッティなど子どもたちに人気のメニューで、好きなものを自分で選ぶバイキング形式の給食を行います。2歳児も職員が援助しながら自分で盛付をする体験をしています。
- ③ 担当職員による食育（プロジェクト）が活動しています。園庭での苗植えから収穫、野菜に触れる体験、おにぎりやサンドイッチの調理体験、お弁当箱に給食を自分で詰める「おべんとうバイキング」など年齢に合った食育計画を立てています。エプロンシアターや寸劇で、食事の時の正しい姿勢や手洗いの仕方などを楽しく勉強しています。毎月の実践を記録して評価・反省を行い、子どもたちが食事や食材に関心を持てるようにしています。
- ④ クッキングの日には、年齢に合わせた調理体験をします。4、5歳児クラスは職員が付いて包丁を使い、2、3歳児クラスは手で裂けるピーマンなどを担当し、1歳児クラスは野菜に触る体験をします。11月には、園庭で栽培した里芋を収穫し、大根、人参、白菜、ネギを切って、みんなで「芋煮会」を行いました。
- ⑤ 調理担当職員は、毎日の残食状況を記録して献立や調理の工夫を行っています。給食日誌には、食材の納入時間と温度、冷蔵庫の温度、加熱調理後の献立の中心温度など細かい記録がされています。職員会議の中で給食に関する情報交換や検討を行っています。
- ⑥ 保護者に献立表を毎月配付し、食育に関するお知らせは園だよりに掲載しています。玄関には、数種類のレシピカードを用意し、毎日の給食を展示しています。食育活動の時の子どもたちの写真も掲示され、保護者が給食や食育活動に関心を持てるように工夫しています。保育参加の期間に、子どもと一緒に給食を試食する機会を作っています。離乳食については、「離乳食食材一覧表」で保護者と確認しながら進めています。
- ⑦ 排泄に関しては、個人差があることを配慮して対応しています。トイレが明るく楽しい空間になるように、子どもたちが好きなキャラクターの絵を貼っています。トイレトレーニングは、保護者と連携し、一人一人の発達状況に応じて個別に対応しています。おもらしをした時は、他の子に見られないように配慮しています。
- ⑧ 午睡時は、部屋を少し暗くし、オルゴールの音楽を流して、心地良く眠りにつけるようにしています。SIDS（乳幼児突然死症候群）予防マニュアルに沿って、0歳児クラスは5分ごと、1、2歳児クラスは10分ごとに呼吸チェック表をつけています。幼児は顔色や様子を確認しています。5歳児クラスは、1月後半から午睡の時間をなくし、子どものペースに合った活動をしています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ① 健康管理マニュアルに基づき、子どもの健康を把握しています。看護師は毎朝、各クラスの子どもの様子を観察しています。子どもの既往症の把握に努め、対応が必要な場合は職員に周知しています。個人用の「けんこうのきろく」に、在園中の身体計測や健康診断、歯科健診の結果、予防接種や病気の記録等を記入しています。
- ② 健康診断は、0、1歳児クラスは年に3回、2歳児クラス以上は年に2回行っています。歯科健診は年に1回行われます。その他、3歳児クラス以上は年に1回尿検査を行い、4歳児クラスは視聴覚検査があります。健康診断や歯科健診の結果は「けんこうのきろく」に記入し保護者に通知します。特記事項がある場合は、嘱託医から助言を受け、保護者に適切に連絡するように配慮しています。

- ③ 歯みがきは、0歳児クラス（歯が生えてから）から行っています。歯科健診を利用し、3、4歳児クラスにブラッシング指導を行い、5歳児クラスには口腔内の赤染で歯みがきチェックをします。栄養士からは食材と三色食品群のお話があり、子どもたちは一生懸命聞いています。
- ④ 感染症の疑いが生じた場合は、「感染症対応マニュアル」に沿って対応しています。感染症の登園禁止基準等は、「園のしおり」に明記しており、入園説明会や懇談会で保護者に説明しています。感染症が発生した場合は、廊下に情報を掲示して、保護者に速やかに周知しています。看護師は地域の感染症情報を調べて、職員に周知しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ① 環境整備（プロジェクト）が衛生管理を担当し、年間計画を立てて活動しています。「衛生管理マニュアル」のほかに、給食衛生管理マニュアル、清掃マニュアル、ごみ捨てマニュアルがあり、それらに沿って園内の清掃や衛生管理を行っています。「環境整備チェックシート」で、保育室、トイレ、調乳室、廊下、玄関などの清掃をチェックしています。
- ② 毎月、業者による害虫駆除を実施しています。職員と保護者が保育室に入室する際は、手指のアルコール消毒をすることになっています。マニュアルは全職員に配付されており、職員会議で内容の確認をしています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



- ① 保育室内の家具は固定されており、高い所に物を置かないようにしています。「安全管理マニュアル」に沿って、毎月園庭や保育室の安全確認を行っています。「安全管理委員会」で年間計画を作成し、園内や園庭の危険箇所や安全チェックリストの再チェック、玩具チェック、ヒヤリハットの共通認識の確認などを行っています。
- ② 各保育室には、0、1歳児は防災頭巾、2歳児以上はヘルメットが用意してあります。園内は、強化ガラス以外の場所には飛散防止シートを貼っています。防災倉庫があり、アルファ米・飲料水・ミルクなどの食料が3日分と、毛布・非常用トイレ・発電機などが備蓄されています。備蓄品の数や消費期限は、安全管理委員会の活動で把握し、点検を行っています。
- ③ 防災（委員会）で防災計画を立て、「避難訓練計画」に沿った訓練を毎月行っています。火災・地震・津波・不審者侵入を想定し、園庭への避難、消防署による消火指導、避難用すべり台の使用、広域避難場所への避難などを、計画的に行っています。今年度はJアラート発令訓練も行いました。年に1回の防災引取り訓練では、保護者にメールで避難状況を連絡し、配信状況を確認しながら緊急時引渡しカードに沿って、確実に子どもを引き渡す訓練をしています。防災用の備蓄食品の試食も行っています。
- ④ 子どもの事故やケガに関しては「事故対応マニュアル」に沿って対応し、「事故報告書」を作成して職員会議で原因究明や改善策を検討します。軽症であっても保護者に状況を連絡し記録しています。小さな出来事も「ヒヤリハット記録シート」で報告し、原因究明や再発防止策の話し合いに活かしています。
- ⑤ 門扉は自動的に施錠され、開放状態が続くと園内に警報が鳴ります。送迎時は、保護者が定期的に変更される暗証番号を入力して解錠します。非常時に警備会社と通話できるシステムを導入し、防犯カメラを設置するなど、不審者対策を行っています。警察署から発信されるメールで、地域の不審者その他の犯罪情報を確認しています。

Ⅱ-3 人権の尊重



- ① 職員は、子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮し、威圧的な言葉遣いにならないように気を付けています。全職員に配付される「職員の心得」には、10 項目の保育に関しての心構えが示されており、職員会議で子どもの人権を尊重することの大切さについて確認しています。
- ② 子どものプライバシーを守り、保育士と1対1で話す必要がある時は、ホールや相談室などを利用します。おもらしなどで着替えが必要な時は、別室で対応しています。子どもが他の視線を感じずに過ごしたい時は、保育室の一角や、ホール、園庭の木の家などで、職員がそっと見守りながら静かに遊ぶことができます。
- ③ 「個人情報保護管理規程」に個人情報の取り扱いが定められています。「職員の心得」にも、情報の管理についての項目があり、守秘義務について周知されています。ボランティアや実習生にも説明をしています。保護者には「個人情報の利用目的について」を配布して説明を行い、「個人情報の使用等に係る同意書」を提出してもらっています。
- ④ あだ名や呼び捨てはせず、家庭での呼び方を確認して、〇〇さん、〇〇ちゃんと呼ぶことにしています。グループ分けや整列などで、性別による区別は行わず、性差への先入観を与えないように配慮しています。職員が自らの意識を見つめ直すために、職員会議等での啓発の取組みが期待されます。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- ① 保育方針と園目標は、パンフレット、ホームページ、園のしおりに明記されており、入園時の説明会や懇談会で説明を行っています。送迎時に目に入るように、廊下に園目標を掲示しています。毎年、保護者アンケートを実施していますが、保育方針や園目標の理解度を確認する項目がなかったため、アンケート項目の検討を行う予定です。
- ② 送迎時の会話や連絡ノートで、保護者との情報交換を行っています。各クラスの「クラスノート」で、今日の出来事や園生活に関する情報を確認することができます。年2回の懇談会は、多数の保護者が参加できるように、夕方から開始しています。個人面談は5歳児クラスのみ日にちを設定して行いますが、0～4歳児クラスについては、保護者の希望により随時対応しています。
- ③ 保護者から相談を受ける場合は相談室を使用し、内容によって主任保育士や園長が同席します。相談の内容は記録し、必要に応じて職員で検討しています。送迎時や連絡帳で相談を受けた職員が適切に対応できるように、保育主任、主任保育士、園長から助言を受けられる体制になっています。
- ④ 「園だより」「クラスだより」を毎月発行しています。「園だより」には、当月の報告と翌月の予定、各クラスの保育のねらいが掲載され、「クラスだより」では各クラスの保育の様子が分かる内容になっています。職員が日常の保育の様子を写真に撮り、玄関や保育室に掲示してします。行事の時の子どもたちの様子は写真屋さんが撮影し、職員が撮った写真と合わせてインターネットで購入が可能になっています。
- ⑤ 保護者には年度初めに年間行事予定表を配付しています。保育参加は年2回行われ、保護者が子どもたちと一緒に半日過ごし、紙芝居などをして楽しみます。前期の保育参加では子どもたちと一緒に給食を食べるため、1日に2人ずつ参加します。懇談会や保育参加に出席できなかった保護者には、個別に対応しています。

- ⑥ 保護者が組織されており、年7回の幹事会の場所を提供しています。保護者だより「あひるの子」の発行、保護者会独自のアンケートの実施、園と共催行事のバザーなど活発な活動をしています。保護者会会長と園長は、定期的に打ち合わせや意見交換を行っています。

Ⅲ 地域支援機能

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- ① 金沢区の子育て支援連絡会、南部療育運営協議会、園長会、幼保小連絡会などに出席し、地域の子育て支援ニーズの情報を得ています。園は、地域での子育てを支援するためのサービスとして、一時保育、園庭開放、遊びサポート（交流保育、遊具玩具遊び、移動動物村など）を提供しています。
- ② 遊びサポートの中には、金沢南部地区社会福祉協議会の子育て支援シーエンジェルとの連携で地域の町内会館での出張保育（年3回）、園児と一緒に給食を食べる機会もあります。一時保育の受け入れは1日4～5名としていますが、地域ニーズが高いサービスです。園行事参加や子育て支援サービス利用者からアンケートをとり、今後の園の子育て支援サービス提供の参考にしています。

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能



- ① 丁寧な育児支援サービスを提供しており、地域の子育て世代の人々から関心を得ています。さまざまな取り組みの中で育児相談に対応をしていますが、さらに丁寧に対応をしていく仕組みとして、最低週に1回、定期的な日程を設けての育児相談の対応が期待されます。
- ② 地域の人からの相談に対し、園のみでの対応が難しい場合は、園長が担当者となり、主として金沢区のこども家庭支援課と連携を図っていく体制を整えています。

IV 開かれた運営

IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- ① 毎週土曜日に、地域の親子を対象に園庭開放を行っています。月1回行っている事前申し込み制の親子体験保育「遊ぼう会」では、午前中を同じ年齢のクラスで過ごし給食も体験します。地域の高齢者施設の入所者を「敬老会」に、地域の老人会を「ひなまつり会」に招待して、高齢者と交流を図っています。「お店屋さんごっこ」「バザー」などの行事には、地域の人が多数参加しています。
- ② 散歩で、地域の図書館や地区センターのプレイルームを利用しています。近隣の保育園と公園で集合して一緒に遊ぶことで交流しています。ハロウィンの時は、近くの商店街の協力で、子どもたちがお菓子をもらいにお店を回りました。お花屋さんに球根を買いに行くこともあり、地域の人たちと触れ合っています。町内会館で毎月行われる「ふれあい会」に園児が参加し、高齢者と触れ合っています。近くの小学校の公開授業の日に、教室に入ってイスに座ったりランドセルを背負わせてもらう体験もしています。

IV-2 サービス内容等に関する情報提供



- ① 保育園のホームページで、サービス内容、保育時間、職員体制などの詳細な情報を発信しています。地域子育て支援拠点のホームページに園の情報が掲載され、公園で催される「いきいきフェスタ」に保育園ブースを出しています。シーエンジェル(金沢南部地区子育てしやすい地域づくり事業推進協議会)と共催で定期的に行っている「遊びサポート」や、園の行事についての情報が、シーエンジェルのお知らせブログに紹介されています。
- ② 園見学は、毎月10～20日の午前10時から行っており、ホームページで案内しています。見学の日は希望者の都合に合わせて調整しています。見学者受入マニュアルに沿って案内し、園の基本方針やサービス内容についてパンフレットを使って説明しています。問い合わせについては随時対応しています。

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



- ① ボランティア受け入れマニュアルがあり、受入担当は主任保育士になっています。受入れ時には、園の方針や利用者への配慮について説明し、ボランティアの感想や意見を園の運営に反映させる体制ができています。
- ② 実習生受入マニュアルに沿って、幼児保育主任が対応しています。実習生受入れにあたっての考え方や方針を、あらかじめ職員や利用者へ説明しています。実習生が相談しやすい環境づくりに配慮し、実習終了後に、実習生と園長、実習担当者で意見交換を行っています。

V 人材育成・援助技術の向上

V-1 職員の人材育成



- ① 園長は、クラス編成、勤務時間帯、経験年数などを考慮した人材配置を行い、正規職員が必要な場合は設置法人本部に補充を依頼しています。非常勤職員は園の判断で採用をしています。
- ② 設置法人の人事考課フレームに基づき人材の育成に取り組んでいます。初任者は保育主任、それ以上の職員は園長との年 2 回の面談で職員個々の目標や人事考課フレームを用いての話し合いや評価を行い、達成度を確認し、次年度につなげています。
- ③ 設置法人の年間スケジュールに基づいた内部研修、保育主任が作成担当となっている（外部）職員研修実施計画のほか、園内研修があります。研修受講後は、職員会議での発表、研修報告書の回覧（全職員対象）をしています。施設間交流研修に参加をした職員の提案で、救急箱を各保育室に設置をし、子どもの小さなケガに速やかに対応ができるように改善をしています。
- ④ 非常勤職員は補助的な立場で保育に関わっていますが、常勤職員同様に園の状況を把握できるよう、シートに基づいた自己評価を実施しています。園長面談を通し、評価、課題の把握につなげています。

V-2 職員の技術の向上



- ① 自己評価シートに基づいたチェックの後、仕事への姿勢、仕事の成果、課題の再確認の自己コメントを記載しています。年度末には職員が 1 年の振り返りを 6 グループに分かれ、討議をしています。
- ② 年間指導計画、月間指導計画・週案があり、反省・評価が出来る書式が定型化されています。記録を取る際は、子どもの目に見えない心の動きを捉え支える、大事な出来事を忘れない、改まって振り返って考えることなどを意識しています。見直し後、次の指導計画に反映しています。振り返りから気づいた課題などは、職員会議で話し合っています。今年度、保育日誌の書式を変更しています。子どもの姿、保育士との関わり、子どもの声など、題名をつけてエピソード形式で記載をしています。
- ③ 必要に応じて、運営委員会に出席を得ている第三者委員（元保育園園長）や横浜市南部地域療育センター職員からアドバイスや指導を受けています。
- ④ 職員一人一人の自己評価、1 年の振り返り討議を経て、園の自己評価をまとめています。園だよりで公表をしています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ① 設置法人のキャリアパスフレームや金沢愛児園事務分掌に職員の経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明記されています。
- ② 防災、安全管理、環境整備、地域交流、食育の 5 プロジェクト（委員会）を立ち上げ、全職員がいずれかに所属をしています。毎月各委員会を開催し、それぞれの会の視点に立った話し合い、意見交換を活発に行っています。委員会活動を通して、職員の技術、モチベーションの向上につなげています。

- ③ 職員から園長への意見書の書式があり、積極的に意見や提案を出してもらっています。地域支援拡大、地域への情報提供の拡充など出された意見・提案を運営や業務改善に反映をしています。
- ④ 園長は年2回、職員と面接を実施し、職員の満足度・要望の把握に努めています。また、主任と協力し、日々の業務を通じて職員一人一人と言葉を交わし、コミュニケーションを深めるように努めています。

VI 経営管理

VI-1 経営における社会的責任



- ① 職員が守るべき法・規範・服務規程などは就業規則やそれらをまとめた職員の心得として明記されており、入職時に説明をし職員の心得を配付しています。
- ② 園単独の経営、運営状況などの公表はありませんが、設置法人の経営、運営状況はホームページで公開しています。
- ③ 設置法人の施設長会議で出された不適切な事例や、新聞やニュース報道などを職員会議で取りあげ、話し合っています。
- ④ 廃材の活用、節電、節水など環境に配慮して取り組んでいます。今後は園の取り組みを明文化されることが期待されます。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ① 園目標の改定にあたっての話し合い、新しい目標・保育方針の理解度「卒園までに育てたい子どもの姿」とは、を内容とした園内研修など、職員は、理念、目標、方針の理解を深めています。園長は、職員会議で折に触れ保育の方針や目標に立ち返る話し、職員の理解をさらに深め、実践につなげるようにしています。
- ② 園の重要な意思決定が必要な場合には、前もって文書を配付したり、懇談会で話し合いや、意見交換をする体制を整えています。また保護者会とも連携をとっています。
- ③ 主任は、園長をサポートし、フリーな立場で積極的に現場を回っています。安全、円滑に業務にあたるように個々の職員と関わることを重視しています。職員の様子を見ながら少しずつ指導や助言を行っています。心身の状況把握にも努め、時には園長と職員の橋渡しの役割も努めています。
- ④ 乳児保育主任、幼児保育主任がそれぞれのクラス状況を把握しており、状況に考慮しながらシフトを組んでいます。園内の運営会議では園長、主任、乳児、幼児保育主任参加のもと話し合いが行われています。

VI-3 効率的な運営



- ① 事業運営に影響のある情報は設置法人で収集、分析をしています。園長は、設置法人本部で行われる施設長会議のほか、金沢区の園長会や幼保小連絡会などの会合に出席し、情報収集をしています。園に関わる事項は、職員会議で周知をしています。
- ② 保育園運営に関する中長期計画の策定は設置法人法部で行っており、園での策定には至っていません。園の地域性、特徴などを含め、園の進む方向を明確にするため、中長期的な視野に立った計画の策定が期待されます。

利用者本人調査

調査対象

園全体の在籍数：

0歳児クラス：12名

1歳児クラス：22名

2歳児クラス：23名

3歳児クラス：23名

4歳児クラス：24名

5歳児クラス：23名

調査概要

《0歳児クラス》

(散歩)

立ち乗りバギー2台、お座り用バギー1台に子どもたちは分乗します。園庭で遊んでいた年上の子どもたちがやって来て、子どものほっぺを優しく触ったり、「いないいないばあ」であやしてくれます。事務室、園庭にいる保育士、他の年齢の子どもたちからかかる「いってらっしゃ〜い」に見送られ出発です。バギーの揺れが心地良いのか、お座り用バギーに乗っている2名は程なく眠ってしまいます。京急の金沢検車区（京急の車両基地）に到着です。門扉越しに行き交う電車が良く見えます。門扉の隙間にみんな顔を突っ込むようにして、電車を待ちます。「あ、来た来た」「また来たよ〜」「ガタンガタン」保育士の声かけに子どもたちは楽しそうに電車を眺めます。京急の関係者が出てきて「みんな電車好きなの？」と気さくに声をかけてくれます。別の保育園の子どもたちがやってきたので、場所を譲ってあげています。帰り道も、保育士が大川を泳ぐ鵜のような鳥を見つけると「ほら、見えるかな」ハトを見つけると「ポッポさん、バイバイ」宅配便の車に「バイバイ」、「給食何かな？」など子どもたちに話しかけながら園に戻りました。

(食事)

「だっ、だっ」とごはんを催促する子ども、ダイコンスティックを手に持ちかじりつく子ども、手づかみで黙々と食べる子どもなど、保育士は子どものペースを見ながら援助をしています。満足そうな子ども表情を見て「おいしいの？〇〇ちゃん、良かったね〜」と保育士も嬉しそうに声をかけます。別の子どもは、スープをカップから飲ませてもらい「ゴクン」ができると「あ〜じょうず」と保育士に褒められています。

(排泄)

おむつはおむつ台で替えてもらえます。「出てるかな」「さっぱりしようね」と保育士は話しかけます。ラックに座り、自分の順番を待っている子どもにも「もうすぐだよ。ちょっと待っててね」と保育士は声をかけています。

(午睡)

カーテンを引き、オルゴールの音色の静かな音楽をかけ、午睡の環境を作っています。保育士は、ぐずっている子どもが安心できる抱っこの姿勢をいろいろ探っています。他の子どもは保育士に頭やおでこをなでてもらったり、体を優しくさすってもらいながら入眠していきます。昼食から登園した子どもや午前寝をした子どもは「まだ眠くないよね」と保育士が別の場所にサークルで遊び場を作ります。数名の子どもがそこに入り、おもちゃで遊び始めていました。

《1歳児クラス》**(園庭遊び)**

リヤカー型の車をトコトコ押ししたり、三輪車を乗り回す子どもに「じょうず、じょうず」と保育士が声をかけています。「せんせい、これ」と何か見せています。「これは、松の葉っぱだよ」と答えません。砂場では、近くのテーブルに皿を置き、型はめで盛り付けをしているグループがいます。その他すべり台、ハウスなど子どもたちは思い思いの場所で好きな遊びを楽しんでいます。

(食事前)

ランチルームに移動をします。先に席に着いた子どもたちは保育士と手遊びを楽しみます。給食に関する手遊びが終わり、保育士が「もう一回やる？」と子どもたちに尋ねます。一人の子どもが大きな声で「やだ」と答えます。「じゃ、何にする？」「〇〇！（アニメのキャラクター名）」とはっきり伝えます。「ゲーチョコキパーで・・・」と始まると子どもたちの表情がさらに楽し気に変わります。アンコールが出てもう一度繰り返します。

(排泄)

園庭から戻ると、低い衝立を置き、マットを敷いた上でおもちゃで遊びながら、トイレの順番を待ちます。トイレでは紙パンツを脱いで便座に座ります。タイミング良く排泄ができると「〇〇ちゃん、すごい、おしっこ出たね」とうれしそうに保育士が褒めています。

(午睡)

食事が済み、眠くなった子どもから適宜午睡の準備を済ませ布団に入ります。ゆっくりと食べている子どもがまだ食事が終わらないうちに眠ってしまう子どももいます。

《2 歳児クラス》

(食事)

「〇〇ね、おねつでちゃった」「そうだったね。でも、とっても丈夫になったよね」「お散歩、誰と手つないだかな?」「〇〇くん」「〇〇ちゃん」「そうだったね~」「せんせい、みてて」「せんせい、ぴかぴか」と食事中、子どもたちと保育士の楽しいやりとりが行き交います。

(排泄)

食事が終わると、トイレにグループごとに行きます。「まもなくトイレ電車が出発しま~す。ゴトンゴトン・・・」とみんな一列の電車になってトイレに向かいます。トイレでは男の子用の便器で排泄ができる子どももいます。

保育室の午睡の準備ができるまでの間、隣のホールでミニカーを広げて遊んでいる子がいます。トイレの順番が来て、その場を離れる子どもが保育士にミニカーを手渡します。「ちゃんと、もっててね」と保育士に念を押します。お気に入りのミニカーのようで、他の子どもに取られたくない様子です。

《3~5 歳児クラス合同 朝の園庭遊び》

3~5 歳児の保育室の窓の外がテラスになっていて、靴を履き替えて広い園庭に出ることが出来ます。子どもたちは、クラスで色分けされた日よけの帽子を被って、元気よく遊んでいました。園庭には、砂場、ジャングルジム、すべり台、小さなアスレチック、木の家、ブランコなど、たくさんの遊具があり、子どもたちは、年齢に関係なく、好きな場所で好きな遊びに集中しています。三輪車や手押し車で園庭を回っている子や、かくれんぼや鬼ごっこで走り回っている子どもたちもいて、歓声が上がっていました。砂場では、容器を使っているいろいろな形に砂を固めている子や、大きな砂山を作り両側からトンネルを作っている子どもがいました。砂山の一部が途中で崩れてしまい残念そうでしたが、すぐに友だちと作り直していました。友だちと遊んでいた3歳児が泣きべそをかいて保育士に駆け寄ってきました。保育士がその子を抱きしめて優しく話しかけていましたが、しばらくすると、また遊びの輪に戻っていきました。0歳児の子どもたちがベビーカーで散歩に出発する際には、子どもたちは遊びの手を止めて「赤ちゃんだ」「行ってらっしゃい」と声をかけていました。保育士は園庭の各所で子どもたちの遊びの様子を見守りながら、声かけをしていました。

《3 歳児クラス》

(食事)

CDの音楽が流れる中、子どもたちは順番に手を洗ってテーブルに座り、水筒に残っているお茶を自分のコップに注いでいます。保育士が、声をかけながら、ご飯、すまし汁、ミートローフ、野菜のごま酢和えを配膳していきます。子どもたちは楽しそうに外遊びの時の話をしています。「先生、お茶こぼしちゃったんだって」という声で、保育士が布巾を持っていき、その子に「教えてくれてありがとう」と伝えていきます。配膳が終わり、保育士が献立の説明を始めると、子どもたちは静かに聞き入っていました。みんなで「お給食のうた」を歌って「いただきます」をした後、食事が始まりました。保育士が「ごはん減らしたい人いますか？」と聞くと、子どもたちは口々に「へらさない!」「お茶ください!」と答えています。テーブルごとに、楽しく話をしながら、お箸やフォークを上手に使って一生懸命食べていました。子どもたちは食欲旺盛で、お代わり用の野菜、すまし汁、ミートローフも全て完食しました。

《4 歳児クラス》

(午前遊び)

3歳児・5歳児との合同遊びが終わった後、テラス前に集合しました。鬼ごっこをすることになり、保育士が3種類の鬼ごっこ遊びを砂に書いて、子どもたちは、やりたい遊びのところに並びます。「かくれ鬼のルールは?」「こおり鬼のルールは?」「バナナ鬼のルールは?」と聞かれた子どもたちは、「かくれる!」「こおりになる!」「バナナになる!」と元気よく答え、注意事項を聞いてから鬼ごっこが始まりました。最初の勝負はすぐに終わってしまい、子どもたちは自分が何番目に見つかったかを確認し合っていました。保育士から、園庭の「お家」には行かないように言われると、子どもたちは「赤ちゃんが遊んでる」「ぶつかっちゃう」と答えて、鬼ごっこを再開しました。

(食事)

4名の当番の子どもは黄色いスマックを着て、和風サラダとクリームスパゲッティが盛り付けられた食器を一人一人に配っています。調理室からスープの入ったお鍋が運ばれ、保育士が各テーブルを回って食器によそっていきます。テーブルごとにお話をしながら待っていた子どもたちは、「食器をミッキーの形に置いてください」と声をかけられ、スパゲッティのお皿を真ん中にして、サラダとスープがミッキーの耳の位置になるように直しています。保育士は「ベーコンは何色?」「サラダには何が入っていますか?」「スープの白いのは何かな?」など、食材についての質問をしながら、メニューの説明をしていきます。子どもたちは、考えながら保育士の質問に答えていました。配膳が済むとみんなで「お給食のうた」を歌い「いただきます」をして食事が始まりました。苦手な食材がある子どもや小食の子どもは、事前に保育士に取ってもらったり、食べられる量に調整してもらいます。デザートバナナが苦手な子どもは、保育士と相談して少量にして、グループの友だちに「これは私のバナナだよ」と話していました。食事が進んでいくと、友だちとの会話が楽しくて賑やかになってきます。クリームスパゲッティは人気で、ほとんどの子どもがおかわりに手を上げていました。食事が終わり「ごちそうさまでした」の挨拶をした後、テーブル毎に重ねられた食器を、当番の子どもが

片付けます。完食で残菜はありませんでした。子どもたちは、歯ブラシを出して歯を磨く準備を始めました。

《5 歳児クラス》

(朝の会)

朝の園庭遊びをしていた子どもたちは、保育士の「さくらぐみさん、お片付けしましょう」という声で、砂場のおもちゃや三輪車などを倉庫に片付けて保育室前に集合しました。自分の水筒を取ってテラスに腰かけて水分補給をした後、靴についた砂を払って、テラスのくつ箱にしまいました。保育室に入った子どもたちは順番に手を洗い、イスを持って自分のグループのテーブルに行きます。保育士のピアノ伴奏で、歌を歌いながらハンカチを使った手遊びをして、みんなが落ち着いたところでトイレに行ってから、朝の会が始まりました。当番の4名の子どもが前に出て、「バイキングで一番おいしかったものは？」という質問に、「からあげです」「ソーセージです」と答えていました。「お当番さん、よろしくおねがいします」というみんなの声に、「がんばります！」と元気よく答えていました。「あさのうた」を歌って挨拶をした後、当番の子どもが、出席ノートの名前を確認しながら、みんなに配ります。出席シールを貼っている間に、保育士が、日にちや曜日、天気などを子どもたちに聞いて、ホワイトボードに書きこみました。

(午前の活動)

朝の会の後は製作の時間です。茶色の折り紙で作ったドングリ、糊、クレヨンがテーブルに用意されています。保育士が「心の中でどんなふうにごんぐり貼るか考えた？」と聞きながら、画用紙を配っていきます。配られる画用紙を待っている間に、楽しそうに「どんぐりころころ・・・」と歌い出したグループがあります。

「ドングリを貼ってから絵をかきましょう」という保育士の声で、子どもたちは一斉に自分の糊を取って画用紙に向かいました。

家族アンケート結果

アンケートの概要

1. 調査対象

利用者の全家族

2. 調査方法

アンケートは評価機関で準備をして保育園から配布してもらいました。回答は家族から郵送にて直接に評価機関に送っていただきました。

3. アンケート発送数等

発送数：	102 通	返送数：	44 通	回収率：	43%
クラス：	0歳児： 8 通	1歳児：	7 通	2歳児：	9 通
	3歳児： 8 通	4歳児：	6 通	5歳児：	4 通

4. 全体をとおして

利用者家族へのアンケート回収率は43%に留まりました。

アンケートに回答した家族は、「保育園を総合的に評価した満足度」では「満足」が52%であり、「どちらかといえば満足」も含めると91%が満足しております。

内容別では、「満足」の高い項目として「お子さんが給食を楽しんでいるか」があげられ、「満足」が75%であり「どちらかといえば満足」を含めると100%となっています。他にも「給食の献立内容」「基本的生活習慣の自立に向けた取り組み」においても「満足」が71%を占め、保育園生活に対する評価が高くなっています。

一方で「保護者懇談会や個別面談などによる話合いの機会」については「満足」が36%に留まっています。また、「不満」が多い項目としては、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換」において、一部ですが「不満」が7%で、「どちらかといえば不満」も18%あります。

施設への要望などの自由記入欄には、「先生方に良くしていただいて満足しています」「ありがとうございます。」などの感謝の声があります。要望としては「保護者参加の行事を望む」「園生活の情報提供を求める」などがあります。

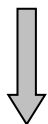
「あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか」の質問には、「よく知っている」は14%となっています。「まあ知っている」を含めた70%の回答者の全員が、その目標・方針に賛同をしています。さらに保護者に園を知ってもらうとともに、多くの保護者にアンケートに答えてもらい、「保育の質の向上」に向けて保護者と園とが協力していくことが期待されます。

アンケート結果

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

1 よく知っている	3 どちらともいえない	4 あまり知らない
2 まあ知っている		5 まったく知らない



1	2	3	4	5	無回答
13.6%	56.8%	9.1%	15.9%	0.0%	4.5%

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

1 賛同できる	3 どちらともいえない	4 あまり賛同できない
2 まあ賛同できる		5 賛同できない

1	2	3	4	5	無回答
80.6%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	59.1%	22.7%	0.0%	2.3%	13.6%	2.3%
その他: 見学していない、見学を希望しなかった						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	45.5%	40.9%	4.5%	2.3%	4.5%	2.3%
その他: 兄弟がいたので特になし、見学を希望しなかった						
園の目標や方針についての説明には	45.5%	40.9%	2.3%	0.0%	9.1%	2.3%
その他: 兄弟がいたのでとくになし、説明されたおぼえがない						
お子さんの生育歴などを聞く対応には	61.4%	31.8%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%
その他:						
保育園での一日の過ごし方についての説明は	50.0%	36.4%	6.8%	0.0%	4.5%	2.3%
その他: 兄弟がいたのでとくになし						
入園後に食い違いがなかったかなどもも含め、費用やきまりに関する説明については	52.3%	34.1%	4.5%	0.0%	6.8%	2.3%
その他: 兄弟がいたのでとくになし						

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	45.5%	45.5%	6.8%	0.0%	0.0%	2.3%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	38.6%	45.5%	2.3%	4.5%	6.8%	2.3%
	その他:入園したばかりでわからない、特に感じない					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	61.4%	31.8%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	40.9%	40.9%	11.4%	4.5%	0.0%	2.3%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	45.5%	38.6%	4.5%	0.0%	6.8%	4.5%
	その他:あまりよく知らない					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	56.8%	29.5%	9.1%	2.3%	0.0%	2.3%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	54.5%	34.1%	6.8%	0.0%	2.3%	2.3%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	50.0%	38.6%	6.8%	0.0%	2.3%	2.3%
	その他:					

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	70.5%	22.7%	2.3%	0.0%	2.3%	2.3%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.0%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%
	その他:					
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	70.5%	22.7%	0.0%	0.0%	4.5%	2.3%
	その他: 見ていないので何とも言えない					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	59.1%	22.7%	6.8%	2.3%	6.8%	2.3%
	その他: 様子がわからないので不明、対応されていないよう感じるが特に不満はない					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	56.8%	27.3%	4.5%	0.0%	9.1%	2.3%
	その他: まだしていない					
お子さんの体調への気配りについては	63.6%	27.3%	4.5%	0.0%	2.3%	2.3%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	56.8%	29.5%	4.5%	2.3%	4.5%	2.3%
	その他: まだケガをしていない					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	47.7%	38.6%	11.4%	0.0%	0.0%	2.3%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	50.0%	40.9%	4.5%	2.3%	0.0%	2.3%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	38.6%	38.6%	18.2%	2.3%	0.0%	2.3%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	56.8%	34.1%	4.5%	0.0%	2.3%	2.3%
	その他:まだ聞いたことがない					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	36.4%	40.9%	13.6%	2.3%	4.5%	2.3%
	その他:この機会がまだない					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	47.7%	43.2%	4.5%	2.3%	0.0%	2.3%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	45.5%	43.2%	4.5%	0.0%	4.5%	2.3%
	その他:運動会が初めてだったので何とも言えない					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	38.6%	34.1%	18.2%	6.8%	0.0%	2.3%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	43.2%	47.7%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	47.7%	40.9%	6.8%	2.3%	0.0%	2.3%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	40.9%	38.6%	2.3%	2.3%	13.6%	2.3%
	その他:わからない、経験がないのでわからない					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	56.8%	29.5%	4.5%	4.5%	2.3%	2.3%
その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	63.6%	22.7%	4.5%	6.8%	0.0%	2.3%
その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	38.6%	31.8%	6.8%	0.0%	18.2%	4.5%
その他:わからない、該当しないので不明						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	52.3%	36.4%	2.3%	6.8%	0.0%	2.3%
その他:						
意見や要望への対応については	47.7%	34.1%	9.1%	2.3%	4.5%	2.3%
その他:出したことがないのでわからない						

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しているか

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	52.3%	38.6%	6.8%	0.0%	2.3%

事業者コメント

事業者名：金沢愛児園

金沢愛児園は開設から68年目を迎えることができました。

これもひとえに地域の皆様方のご理解、ご協力があればこそと心より感謝いたしております。

おかげ様で愛児園の子ども達は温かい近隣の方々に見守られながら、のびのびと園生活を送る事ができ、素直でまっすぐな子ども達に成長しております。

今回、第三者評価を受審することで保育の原点を見つめ直す事ができました。

全職員で繰り返し自己評価を行う中で、自分達の課題を見つけ、改善できる事はすぐに取り組みを開始しこの受審は大変実りのあるものになりました。

職員が心を一つにして、即実行に移す…。そんなところが金沢愛児園の最も自慢できる所です。

受審にあたりましては評価機関の方々、そしてアンケートにご協力いただきました保護者の皆様には心よりお礼申し上げます。

金沢愛児園はこれからも、地域に根差し、地域に愛され、信頼される保育園を目指し職員一同、日々研鑽を積み、子ども達の未来を明るくしていきたいと思っております。

園長 石井 信恵



株式会社フィールズ
〒251-0024 藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3F
TEL : 0466-29-9430 FAX : 0466-29-2323